

十代の天才棋士 ー藤井聡太ー



(Drawn by Akino SASAKI)

将棋（しょうぎ）はチェスと似たゲームです。日本には将棋が職業のプロがいます。将棋のプロを棋士（きし）と言います。棋士になるのはたいへんです。1年に4人しか棋士になれません。

藤井聡太（ふじい そうた）は、5歳から将棋を始め、2016年に14歳2か月（中学2年生）で棋士になりました。これまでで一番若い棋士でした。藤井は棋士になってから29回も勝ちつづけ、連勝の新記録をつくりました。この記録に

は、多くの将棋ファンが驚き、喜びました。新しい天才棋士が現れたのです。

棋士になって4か月後の2017年に、インターネットのテレビ番組で、藤井は7人のひじょうに強い棋士と戦いました。その結果は、藤井の6勝1敗でした。将棋ファンはそのインターネット番組を見て、14歳の棋士の強さを楽しみました。

2020年は新型コロナの流行で、暗いニュースが多い1年でした。その中で、藤井は7月に8つある将棋のタイトルの中の1つをとり、将棋ファンだけでなく、日本の多くの人々に明るいニュースを届けました。今までで一番若い17歳11か月でのタイトル獲得でした。そして、次の月にはもう1つのタイトルもとりました。

ところで、最近の将棋のテレビ番組では、どちらの棋士が有利かをAIが数字で示しています。現在ではAIの方が棋士より強いのです。コンピュータが人間と初めて戦ったのは、将棋ではなくチェスです。すでに1997年には、コンピュータは世界で一番強いチェスのプレイヤーに勝ちました。しかし将棋では、コンピュータはなかなか棋士に勝てませんでした。ようやく2012年に、コンピュータが棋士に勝つことができました。

将棋は、一手ずつ順番に自分の駒を動かします。そして、相手の王駒を取った方が勝ちです。藤井はコンピュータが考えないような手を指すことがあります。しかも、その手がひじょうに良い手なのです。2020年の6月のタイトル戦で藤井が指した58手目の手を、コンピュータは良い手とは評価しませんでした。ほ

かの棋士たちもその手に驚きました。それは弱い人がただ守るために指す手のように見えたのです。勝負が終わった後、将棋アプリの作者が、藤井のその手をコンピュータに、たくさんの時間を使って評価させました。すると、6億手以上計算すると、コンピュータはその手を一番良い手としたのです。ほかの棋士たちも、その手を「ピカソのような自由な発想の手」、「常識をうたがう手」として高く評価しました。

羽生善治（はぶ よしはる）は、1996年に当時7つあった将棋のタイトルをすべてとった天才棋士です。その羽生は、藤井をこう評価しています。「藤井さんが現れたことによって、すべての棋士がいつそう努力するようになりました。棋士全体の実力が上がっているように思います」。

十代の棋士一人の力が、将棋の世界全体を変えていくのです。

★ YouTubeには藤井聡太の将棋を説明したビデオがたくさんあります。一番のおすすめは、NHKの番組の「最強の棋士へ ～藤井聡太二冠 止まらない進化」です。

<https://www.youtube.com/watch?v=yE3qMZtqZsg&t=1787s>

★ ABEMAという無料のインターネットテレビには将棋のチャンネルがあります。その将棋チャンネルで、藤井聡太の試合を見ることができます。ABEMAにはニュースやドラマ、アニメなどのチャンネルもあります。

(1306 字)

(2020.4 Written by Masami KADOKURA)



この作品はクリエイティブ・コモンズ 表示 - 非営利 - 継承 4.0 国際 ライセンスの下に提供されています。この作品を利用する場合は、「たどくのひろば」を出典として示してください。

例) 出典 : 「たどくのひろば」 (<http://tadoku.info>)

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 4.0 International License. When you use this work, please indicate the source as in the example above.